

主任教授からのメッセージ

当科は全国的にも最も女性医師が多い診療科の一つであり、関西医科大学麻酔科もその例にもれず常勤医師に占める女性医師の比率は例年非常に高くなっております。専門研修や専門医取得後の業務について男女差による不公平が起こらないような運営を常に心がけておりますが、現実問題として診療を続ける上で出産や育児が女性医師の負担となることがどうしても多くなります。そのため当科では安心して出産できる環境、無理なく復職できる制度、そして復職後には臨床能力の維持やさらなるキャリアアップに対応できるシステムを充実させ、またそれを医局全体でサポートする体制を構築してまいりました。さらに個別の事情を考慮し細やかな対応ができるよう今後も努力いたします。

○ 診療科の特徴

麻酔科の診療業務は手術麻酔管理・集中治療・ペインクリニック・緩和医療など多岐に渡りますが、各々の業務内容で男女差が問題になることはありません。特に、手術麻酔管理の業務は手術症例単位で行なわれるため、勤務は濃密ですが手術時間のある程度予想することができ、また業務のオン・オフがはっきりしております。そのため子育てをする女性医師のためのフレキシブルな勤務調整が可能で、復職のためのハードルも高くないと考えることができます。

○ 診療科で働く女性医師

附属病院・総合医療センター・香里病院の3病院で麻酔科に所属している常勤女性医師は各々7名、8名、3名であり、常勤医師の約4割が女性医師となっております。このうち、8名の女性医師が育児のために当直・時間外勤務の免除や時短勤務など個別の事情に合わせた形でサポートを受けています。

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

産休後の女性医師について、復帰後どのような勤務を希望するか、どのような将来展望を持っているかなどを産休期間終了前に面談にて確認します。その上で、大学の内規と個人の経験年数・能力などから判断して助教・病院助教・短時間勤務正職員・任期付助教・嘱託勤務などの職位にて復職いただきます。また、個別の事情に応じて大学内規による時短勤務や時間外勤務／当直の免除・早朝カンファレンス出席の免除などを行っています。各自の希望に応じて、診療能力の維持・専門医取得・キャリアアップ等のサポートを行います。

○ 研修内容

	内容	指導下	独立
麻酔	麻酔管理	1か月	2か月以降
	麻酔指導		6か月以降
	術前外来	6～12か月	1年以降
集中治療	集中治療	6か月以降	
ペイン・緩和	ペイン外来	6か月以降	
	緩和チーム	6か月以降	

上記は当科で行っている女性医師復帰プログラムの概要です。

実際には育児に関する事情や休職前の臨床経験、プランクの長さ、サブスペシャリティやキャリアアップの希望などによって個別の対応を行っております。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

本学の女性医師のためのキャリア形成支援制度は素晴らしいと思います。

麻酔科における復帰のための支援プログラムも働く女医にやさしく、かつ機能的に作られています。個人に合ったライフスタイルで無理のないよう、復帰のカリキュラムと勤務形態が選べます。子育ては人生の中で至福の時間でもあります。どうぞ、お子さんとの時間も大切にしながら、ご自分に合ったペースでキャリアアップを図ってください。

医局の育児中の働く女医を見ていると、生き生きして楽しそうです。そういう彼女たちが頑張りすぎていないか、疲れていないか、娘を持つ母親の心境で見守っています。

(オール女性医師キャリアセンターホームページのキャリアモデル麻酔科医の「女性医師の働き方について」「女性医師が麻酔科で働くことの魅力」「女性医師へのメッセージ」も併せてご覧ください)

▶ 復帰した医師の声

体験談 (K 先生)

私には現在 4 歳になる娘がいます。卒後 9 年目に出産し、当院で産休・育休を取得し生後 10 か月の時期に復職しました。その後、常勤麻酔科医師 (9 時から 16 時 30 分、当直免除) として仕事を続けています。子供の急な体調不良で、仕事の休みをいただくこともあります。そのたびに職場の同僚や上司に助けていただいています。休んだ時に仕事を引き受けてくださる先生方にはとても感謝しております。

現在は臨床業務を行う傍ら、当大学院で社会人大学院生として研究活動も行っております。大学院については、長期履修コースという、5 年間かけて習得するプログラムを選択しました。私は、子育てしながらも女性がキャリアアップをしていくことは可能だと考えていて、少しずついいから新しいことを習得していきたいと思い研究活動をスタートさせました。自分の頑張りや周囲の協力はどうしても必要になりますが、子供がいるからという理由でやりたいのに諦める必要はないと考えています。毎日の臨床業務については、時に仕事を残して帰宅することに不甲斐ない気持ちを感じることはありますが、仕事については他の信頼できる先生方がいるので安心して任せられます。しかし、我が子の母親は私一人ですので、そこは迷ったとき大切にしている部分です。子供には「お母さん、楽しく働いているよ。」という姿を見せてあげることが、とても大切だと思っていて、その姿に嘘がないよう、前向きに謙虚に仕事に向き合いたいと日々思っています。

麻酔科の業務や当院の職場は、家庭を持つ女性医師にも働きやすい業務内容、職場環境であると言えます。当院の麻酔科の先生方は家庭を持つ女性に対する理解があって、急なお休みなどで困ったときは助けてくれます。育児についても相談に乗ってくれる素敵なママさん麻酔科医もたくさんいらっしゃいます。皆さん仕事と家庭の両方を大切にしながら、それぞれの働き方でパワフルに働いておられます。麻酔科に興味をお持ちの女性医師・学生の皆さん、是非一度私たちの講座を覗きにいらしてください。



体験談（H先生）

私は卒後6年目で出産し7か月間の産休・育休後、総合医療センターで勤務しています。麻酔科では週一日が外勤日となるのですが、保育園の都合上、現在は総合医療センターのみで働いています。どちらの両親も家が少し離れており、夫も医師のため当直は免除させていただいています。また、産休・育休・復帰後だけでなく、不妊治療中にも勤務時間等ご配慮していただき、教授や周囲の先生方の理解があったからこそ復帰後も充実した生活を送ることができ、専門医取得を目指すことができているのだと深く感謝しております。

麻酔科は女医さんやママさん医師が多いとは言え、当直の人手が必要であったり緊急時の対応を一人でしなければならない場面も少なくありません。そういったところで引け目を感じている部分もあるのですが、限られた時間の中でもしっかりと1例1例責任をもって担当することができる環境を作っていただけているおかげで、復帰後も引き続きスキルアップしていくことができていると感じております。

体験談（M先生）

現在卒後11年目になりますが、4年目に第1子、9年目に第2子を出産しました。第1子出産後は7ヶ月ごろ（当時は幸い子供の離乳食や卒乳がうまく進んだため）に復職しましたが、当講座に入局し間もない頃の第1子出産でもありましたので、不安が強く手が震えたのを覚えています。しかし上級医が温かく、時には厳しく見守ってくださり、同級生や後輩たちの雰囲気の良い環境のおかげで日々責任を持って乗り切ることができました。復帰から3年ほどして希望していたペインクリニック/緩和ケア部門の診療にも携わらせていただき、微力ではありますが外来や病棟での診療にも奮闘しております。こういった診療の機会を提供してくださった上司の先生方には本当に感謝しております。

第2子のお産・育休中には、取得が遅れていた専門医試験にも挑み無事に合格することができました。小さな子供たちを抱えながら自分のスキルアップを目指すのは自分が想像していたものより何十倍も大変ではありますが、限られた時間がはっきりしているからこそ、集中して取り組むことで有意義に過ごすことができ、それを達成できたことで自分の自信にもつながっていると思います。現在は9時-17時で週5勤務（週1外勤日）、家族の協力もあり、たまに土日当直などにも入っております。

当科はママさん麻酔科医だけでなく、子育てに従事しているパパさん麻酔科医もおり、子供達の成長や子育ての大変さや子育てから経験した貴重なおもしろ話なども共有しながら仕事の励みにしています。子供達の体調不良でやむを得ずお休みを頂いた時も「子供さん大丈夫やった？大変やったね。」と声をかけてくださる優しい先輩や後輩先生方も多く、理解がある職場に感謝しております。子育て環境下にいる先生方がたくさんいるからこそ、楽しさや苦勞を共有し、その中から自分なりの働き方を探していけるのも麻酔科ならではののかなと考えています。

子育てか仕事か、、、と女性には悩む問題も多々あると思います。ほんの一例ですが、悩んでいる女性先生方、これから考えていく学生さんへのご参考になればと思います。ご興味のある方はぜひ、麻酔科学講座へ気軽に見学にお越しくださいね。

● 講座ホームページ 関西医科大学 麻酔科学講座 <https://www7.kmu.ac.jp/anesthw/>